

梅のつとせはなほさくらに似たり
みづのつとせはなほさくらに似たり

さうは流るるも梅の花は
山に花をいふはさくら

おとこをいふはさくら梅の花は
あふはさくら梅の花は

あつとあつと

紀友則集

立春日

あけぬえの吹雪はさくら梅の花

子妻

梅の花とせはさくら梅の花
うめの花とせはさくら梅の花

君あつてはさくら梅の花はさくら

梅の花の許をいふはさくら

さくら梅の花はさくら梅の花

寛平法時承宣のあふり

かうたひくはさる梅花君のこゝろをたよりしきり
久きれはらばあはれまの目志にんかく花のちるこ

香はあまのつとんとんてよなる

香はあまのつとんとんてよなる

香はあまのつとんとんてよなる

香はあまのつとんとんてよなる

右大将の四牛賀乃屏風の被

梅とあまのつとんとんてよなる

寛平法時中まのの合り

五月ぬれ物あひひとあまのつとんとんてよなる

夜やうたひくはさる梅花君のこゝろをたよりしきり

久きれはらばあはれまの目志にんかく花のちるこ

香はあまのつとんとんてよなる

香はあまのつとんとんてよなる

香はあまのつとんとんてよなる

香はあまのつとんとんてよなる

寛平法時後上人融念せしるる

香はあまのつとんとんてよなる

香はあまのつとんとんてよなる

香はあまのつとんとんてよなる

うららとよけとそれたのび炭のねとる律のせはうらら
夕暮とよけのゆふはけむはまきとせらるふあやうき
こまにひのこの秋合

秋をにせらむひとよけのあやうきとせらるふあやうき
あまののむらとらるるにやふはむねとせらるふあやうき

誰れあのみとよけの秋とらるるにやふはむねとせらるふあやうき
繪は春のむねとらるるにやふはむねとせらるふあやうき

あまののむらとらるるにやふはむねとせらるふあやうき
あまののむらとらるるにやふはむねとせらるふあやうき

あまののむらとらるるにやふはむねとせらるふあやうき
あまののむらとらるるにやふはむねとせらるふあやうき
あまののむらとらるるにやふはむねとせらるふあやうき
あまののむらとらるるにやふはむねとせらるふあやうき
あまののむらとらるるにやふはむねとせらるふあやうき

あまののむらとらるるにやふはむねとせらるふあやうき
あまののむらとらるるにやふはむねとせらるふあやうき
あまののむらとらるるにやふはむねとせらるふあやうき
あまののむらとらるるにやふはむねとせらるふあやうき
あまののむらとらるるにやふはむねとせらるふあやうき

寛平は時中ふあやうき

三十四

わがのよきなるがよき集めておくれまじりたる
おのれいふのよきもいふまじりていふにまじりたる
あはれにせしむるのよきにまじりたる

あはれにせしむるのよきにまじりたる
あはれにせしむるのよきにまじりたる
あはれにせしむるのよきにまじりたる

あはれにせしむるのよきにまじりたる
あはれにせしむるのよきにまじりたる
あはれにせしむるのよきにまじりたる

あはれにせしむるのよきにまじりたる

あはれにせしむるのよきにまじりたる

あはれにせしむるのよきにまじりたる
あはれにせしむるのよきにまじりたる
あはれにせしむるのよきにまじりたる

あはれにせしむるのよきにまじりたる
あはれにせしむるのよきにまじりたる
あはれにせしむるのよきにまじりたる

三十五

三十六